

非行予防に活かす カウンセリングの理論・技法



名城大学 曾山和彦

2014.6.1 ¹

犯罪は微罪から始まる！

- 犯罪者は、ある日突然重大事件を起こすというよりも、小さな犯罪を繰り返す中で、罪へのハードルが少しずつ下がる

「殺人者たちの午後」(T. パーカー著)

・10人の殺人者の犯歴を追うと、7ケースは殺人に至るまで窃盗等を繰り返したことがわかった

²

いじめも「割れ窓」から拡がる！

- 全校種において一番多いのは、「冷やかしからからい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」であり、全体の65.9%を占める(H23調査)。

この時点での対応が重要(割れ窓理論)

放置すると、「もの隠し」「暴力」へとつながる

³

「割れ窓」はすぐに修理

～割れ窓(ブローケンウィンドウズ)理論～

もしある建物の一つの窓が割られ、修理されないままに放置されれば残りの窓は全部すぐに割られてしまうだろう

(ケリング & ウィルソン論文, 1982)

- 地下鉄の落書き消し → NYの犯罪激減
- ロッカーの整理 → 「小さな乱れ」で止める
- 悪口の指導 → いじめへの拡大阻止

⁴

「知らなかった」と泣く子を減らす ～犯罪(非行)について教える～

「何が犯罪(非行)で、何が犯罪(非行)ではないのか」
学校や家庭において教えるのは大人の役目

「知らなかった」と泣く子を減らす！ 演習:犯罪(非行)探し

・ が法令に違反し、刑罰を受けるようなことをすれば「**犯罪**」

・ が同様のことをした場合、「**非行**」

⁵

非行の後には長いドラマがある

～「捕まり、説教され、おしまいではない」と教えたい～

・ ; 14歳以上20歳未満で「犯罪」にあたることをした少年。少年法による処分(家裁送致→観護措置、少年院送致、保護観察、児童自立支援施設送致等)を受ける。

・ ; 14歳未満で「犯罪」にあたることをした少年。罪を問えないため、児童福祉法による措置優先(児相で扱い、必要に応じ家裁送致)。

・ ; 20歳未満で放っておくと犯罪に到る可能性の高い少年(正当な理由なく家に寄りつかない等)。

逮捕、観護措置、保護処分等により、自由を制限され、はじめて、「しまった！」と泣く少年が多くいる。

⁶

教師も知っておきたい 主な少年法改正～より厳しい対応の流れ～

<2000年少年法改正>
家裁からの逆送(検察官送致)年齢下限 16歳→14歳

<2007年少年法改正>
少年院送致の年齢下限 14歳→おおむね12歳以上

<2014年少年法改正>
犯罪を犯した時に18歳未満であった少年の量刑に関して、51条1項は、**死刑**をもって処断すべき場合は**無期刑**にしなければ「ならない」とする。同条2項は、無期刑をもって処断すべき場合でも、10年以上15年以下の有期刑することが「できる」とする。2014年の改正で無期懲役に代わって言い渡せる有期懲役の上限が20年以下に、**不定期刑**も「10年～15年」に引き上げ

<参考>死刑事犯の犯罪を犯した の少年には死刑判決が可能 ⁷

非行予防の基本方策を考えるヒント ～夜回り先生の言葉から～

大人は子どもに1日、10回は**言葉をかけてほしい**。
言葉がかかるといことは「愛される」ということ。
子どもは大人から**愛されれば愛されるほど非行から遠ざかる**

発達段階、カウンセリング理論を学ぶことで
「**伝わる言葉の番付**」ができる

非行予防の基本方策を考えるヒント ～ある校長の言葉から～

中学〇年生の担任だった時、一人の女生徒とのかかわりが難しかった。何度、話しかけても全く反応が返ってこないため、やがて声をかけるのをやめた。30年後、同窓会でその女生徒と再会した際、「おまえはあの頃、俺と全く話をしなかったなあ」と語りかけたところ、彼女から……

発達段階、カウンセリング理論を学ぶことで
「**向き合い方の柱**」が立つ ⁹

「思春期」を理解する

かつて私たちも乗った
「大揺れの船」です



- 疾風怒濤期;身体や心の変化・成長に戸惑う
- 第二の誕生(心理的離乳);親からの自立

<私の失敗>

思春期の子どもを担当をしていた頃、子どもに「挑発」され、「揺れている船」に一緒に乗り込んで「沈没」

「揺れている船」に乗っている子どもが時に海に投げ出される。その子どもを助けに行く大人(親、教師)でありたい ¹⁰

「感情転移」に留意する

～「精神分析理論」が子ども理解の助けとなる～

- **感情転移**;父、母、兄弟等に対する感情を類似の人に向けること。例;父親を憎んでいる人が、その感情をカウンセラーに向ける
- **対抗感情転移(逆転移)**;感情転移に巻き込まれること。クライアントが、愛や怒りの感情をぶつけてきたとき、愛してしまう、**怒ってしまう**こと

女生徒の怒り感情に巻き込まれ、怒った校長。
白いスクリーン(empty screen)であれ ¹¹

非行予防の基本方策

私の現在地



～自分、他者、互いを大切にできる子ども育て～

- 自分にOKと言えなければ、他者には尚更OKとは言えない。自分を大切にできなければ、他者は尚更大切にできない → **自尊感情**を育む
- 他者とかかわる技術・コツがなければ、他者を大切にできない → **ソーシャルスキル**を育む

キーワードは、自尊感情とソーシャルスキル
どちらも、かかわりの中でしか育たない
人が人になるには人が必要

学校存在の意義がここにある! ¹²

自尊感情&ソーシャルスキル育成

1. 温かい雰囲気をつくり、「二つの力」を育むことができるグループアプローチを活用する

私の中で最強エクササイズ！「四面鏡」

2. 伝わるように言葉をかける
 東の横綱；いいところ探し
 西の横綱；対決アイメッセージ
 東の大関；リフレーミング
 西の大関；例外探し



13

「言葉をかける(伝える)」ための 大前提～子どもの話を聴いているか～

自分の「聴き方」をロールプレイでチェック！

なぜ、ロールプレイなのか？（ロールプレイの意義）

ロールプレイは「道場の竹刀稽古」。本番で斬らない、斬られないために稽古を積む（河合）

14

傾聴

～全ての理論、技法を超えた基礎・基本～

- 言葉の応答に限らず、身体全体、心も併せて聴けたか（言語及び非言語的コミュニケーションはどうだったか）
- 相手の話を取ってしまわなかったか
- ジョイニング（波長合わせ）ができたか

話し上手は、聴き上手

15

傾聴の意義と基本技法

- クライアントの言葉を鏡になって返すことにより、クライアント自身の自己対話が始まる。
- アメリカの心理実験。カウンセラーの技量、技法に関係なく、クライアントが治るときにはカウンセリング場面で必ず「沈黙」がある。

基本5技法

受容、繰り返し、明確化、支持、質問

16

あなたが、「よい子&気になる子」に かける言葉は？

廊下のゴミを自ら拾い、捨ててくれた
「よい子」のAちゃんにあなたがかける言葉は？

周りが静かにしているのに、ずっとしゃべっている
「気になる子」のB君にあなたがかける言葉は？

<私の言い方&失敗>

- ・プラスもマイナスも共通した言い方 →
- ・「褒めて育てる」という落とし穴 →

思春期の子どもには、特に伝わりにくい言葉のかけ方

17

東の横綱 「いいところ探し」

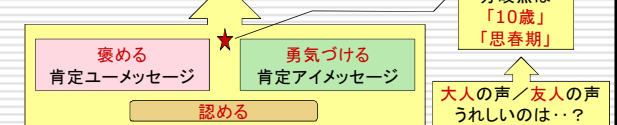
気になる子のいいところ探しができる！それが私たちプロ！



- まずは、子どもの「いいところ」を探し、貯める

誤解したA先生；「ひ○○○○○○○○ん」

- 貯めた「いいところ」を使って、言葉をかける




かける言葉に迷ったら・・・「ありがとう」

18

西の横綱 「対決アイメッセージ」

大学でも効果抜群！
ただし……



行動	相手の 行動 について伝えよう _____
影響	どんな 影響 を受けているか伝えよう _____
感情	Un-Happyな 感情 を伝えよう _____

東の大関 「リフレーミング」

- リフレームは「枠の再構成、見方を変える」
- 「**短所**」と**感じるもの**を「**長所**」に書き換える

↑

「長所はゼロ、短所はいっぱい」(ある中学生の声)
 ・「私って、**優柔不断**」 →
 ・「私って、**おしゃべり**」 →

考え方次第で悩みは消える(A.エリスの論理療法)


「幸せになるか不幸になるかは自分が決めている」

「人生考え方一つ」(元バレー選手Mさん)

20

西の大関 「例外探し」

ブリーフセラピーは
私たちが助けてくれます



うまくやれていること(例外)はきっとある

「てめえ!」と言う
暴言が「**問題**」 → 「先生、あのね」と言う
丁寧語が「**例外**」

なぜ、「例外」が生まれた?
(**例外の責任追及**)

- ・「休み時間に一緒に遊んだから」
- ・「ゆっくりと話を聴いたから」


支援のヒントがここにある

私たちは「**問題**」が100%のように思いがち

21

まとめ


私たちも自尊感情を大切に!



- 「心が動く」言葉を繰り返し聞かせる
 - ・「あの人が**頷**だけで出る勇氣」
 - ・「**ありがとう**は素敵な日本語ナンバーワン」
 - ・「幸せだから**笑う**のではない。**笑う**から幸せ」
- 「2本のアンテナ(違反・遵守)」を立てる
- 「花はいつか開く」と信じる


22

資料



- 「時々、オニの心が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング」、曾山和彦、明治図書
- 「時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ2 気になる子に伝わる 言葉の“番付表”」、曾山和彦、明治図書
- 「クラスでできる 非行予防エクササイズ」、押切久遠、図書文化
- 「先生のためのやさしいブリーフセラピー」、森俊夫、ほんの森出版

下記HPには資料もたっぷり!



HP:「**KAZU・和・POCKET**」

23